

Q：心療内科で「うつ状態」の加療中であり、自殺の心配のある透析患者さんに対して、どのような対応をとればよいでしょうか？

A：透析室で取るべき対応は次の3点です。これだけ心がければ通常は十分です。

- ・特別な対応をせず、患者さんの回復力を信じて見守ること
- ・プロの透析医療者として、適切な透析医療や丁寧な身体的ケアを提供すること
- ・個人として対応せず、かならずチームで対応すること

例：「あなただけに話すけど…」 → 「チームで共有できない内容なら聞けません」

参考文献：透析ケア Volume 27, Issue 11, 1036 - 1039 (2021)

ここからは応用編ですが、

「死にたい」と言われたら、まず酒や薬を飲んでいるか確認したうえで、

<酒や薬を飲んでいる時>

相手の挑発にのらない。

話を長引かせず、できるだけ早く話を切る。

死なないでねと伝える。

<しらふの状態の時>

1) 初めての人、深刻な人の場合

死にたい理由を少しずつ聞いていく。

どういう状況でそうなっているのか？

今までもそういう気持ちになったことがあるか？

あれば、その時はどうやって切り抜けたのか？ 今回もそうできそうか？

初めてなら、命をおとすようなことはしてほしくない伝える。

2) 頻回に訴える人の場合

命をおとしたり、身体を傷つけたりすることを私達は望んでいないが、

とても残念だけれど、あなたがそうするのを止めることはできない、と伝える。

以前勤めていた総合病院ではこれを印刷して救急室の電話の横に貼っていました。当時の私の上司が作られた文書ですが、精神科臨床のエッセンスがつまっていると思います。

2023.03.05 文責：大内雄太（青空クリニック）